

ゼンショーサポーターズクラブ[ZSC] 会員募集中!!

ZSC(ゼンショーサポーターズクラブ)とは

「ZSC」は、株主の皆様とゼンショーをつなぐ架け橋です。
ゼンショーからは、内容を一新し、グレードアップした情報紙
「ゼンショーヴィジョン」や、ゼンショーグループの旬な
メニューを特別割引価格でお試しいただける「特別
お試し券」などをお送りします。



ZSCキャラクター「ゼンショーグン」

ZSC会員特典

- ① 「会員情報紙」の送付
- ② グループ店舗で使える
「特別お試し券」(割引券)の送付
- ③ ZSCオリジナル商品の特別販売(通販)

① 情報紙
(年3回送付予定)



② 特別お試し券
(約5,000円分の割引券を年6回送付予定)



③ ZSCオリジナル商品の販売
(年2回販売予定)



入会をご希望の方は...

同封の「サポーターズクラブ入会案内ご請求
ハガキ」をご返送ください。

300株以上保有の株主様につきましては、
優待券でのご入会も可能となっております。
詳しくは同封の「株主様お食事ご
優待券のご案内」をご確認ください。

会 費
入会金
500円
+
年会費
1,000円

(入会は任意です)

株式会社ゼンショーホールディングス

2016年3月期
事業報告書

2015年4月1日～2016年3月31日

株 主 通 信



AERA企業研究ムック「ゼンショーホールディングス」

目 次

トップメッセージ	2
財務ハイライト	4
カテゴリー別レビュー	9
インタビュールーム Q&A ..	11
株主優待制度	13



2016年3月14日、東ティモール民主共和国のタウル・マタン・ルアク大統領夫妻らがゼンショーホールディングス本社を表敬訪問されました。東ティモールは、2007年にゼンショーグループが、当地で活動していたNGOのピースウィンズ・ジャパンと協力してフェアトレードを初めて行った相手国で、以来、グループではすき家のレジ脇で販売されているドリップバッグコーヒーなどの豆を同国から輸入しています。商品の購入代金に上乗せされる「社会開発資金」（一般にはソーシャルプレミアムと呼ばれているもの）は、NGOのパルシックが推進する現地の水道施設の建設や女性向けのハーブ栽培の指導などに活用されています。当日は小川会長はじめ多くの従業員が一行を出迎えました。



株主のみなさまへ

株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長兼社長兼CEO

小川 賢太郎



株主のみなさまには、平素より格別のお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度（2015年4月1日から2016年3月31日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善が続く中、緩やかな回復基調で推移したものの、中国をはじめとするアジア新興国や資源国等の景気減速懸念等から、先行き不透明な状況が続きました。

外食産業におきましては、実質賃金の伸び悩み等により個人消費が本格回復に至らない中、引き続き厳しい経営環境となっております。

このような環境の下、当連結会計年度の連結業績は、売上高5,257億9百万円（前年同期比2.7%増）、営業利益121億13百万円（同384.9%増）、経常利益113億80百万円（同295.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益40億26百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失111億38百万円）となりました。収益面につきましては、牛肉価格をはじめとする原材料価格の上昇影響を受けたものの、

牛井チェーン「すき家」の深夜営業再開等により、前年対比増益となりました。

「すき家」においては、2015年4月に「New Value」をコンセプトに牛井の商品設計の見直しと価格の改定を行いました。さらに、新商品および季節商品の導入、「秋の肉祭り（牛井価格60円引き）」や「牛井とん汁おしんこ（たまご）セット」の並盛490円フェアを実施するなど、業績の向上に努めてまいりました。

また回転寿司の「はま寿司」では、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努めてまいりました。

今後も引き続き、グループシナジーを追求し、食材調達から製造、物流、店舗での販売までを一貫して設計・運営するマス・マーチャンダイジング・システム（MMD）による商品クオリティの向上とコスト改善を継続的に行ってまいります。

次期の通期業績見通しにつきましては、売上高5,588億61百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益177億10百万円（同46.2%増）、経常利益167億72百万円（同47.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益70億29百万円（同74.6%増）を見込み、年間配当は16円を予定しております。

今後も世界中の全ての人々に安全でおいしい食を手軽な価格で提供する企業として、食の安全性の追求と店舗水準の向上を行うとともに、従業員が働きやすい職場環境づくりを推進し、各業態の出店およびブランド強化に取り組んでまいります。

株主様におかれましてはともにフード業世界一を目指すパートナーとして、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結損益計算書（要旨）

（億円未満切捨て）

	2015年 3月期	2016年 3月期	増 減
1 売上高	5,118	5,257	+138
売上原価	2,201	2,280	+78
販売費及び一般管理費	2,891	2,855	△35
2 営業利益	24	121	+96
経常利益	28	113	+85
親会社株主に帰属する 当期純利益（△損失）	△111	40	+151

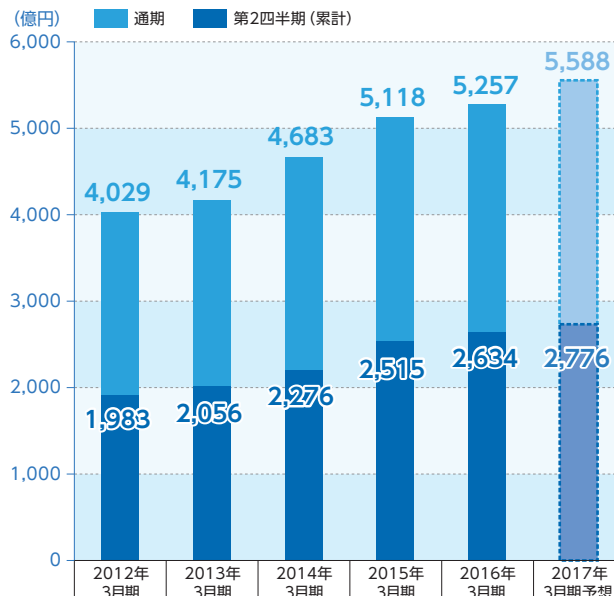
POINT 1

新規出店やすき家の深夜営業再開効果等により増収

2016年3月期の売上高は、「はま寿司」や海外における「すき家」の積極的な新規出店による業容拡大、スーパーマーケット事業の拡大に加え、「すき家」の深夜営業の再開等により、138億円増収の5,257億円（前期比2.7%増）となりました。連結ベースの既存店売上高前年比につきましては、100.0%と前年並みで推移いたしました。

売上高

（億円未満切捨て）



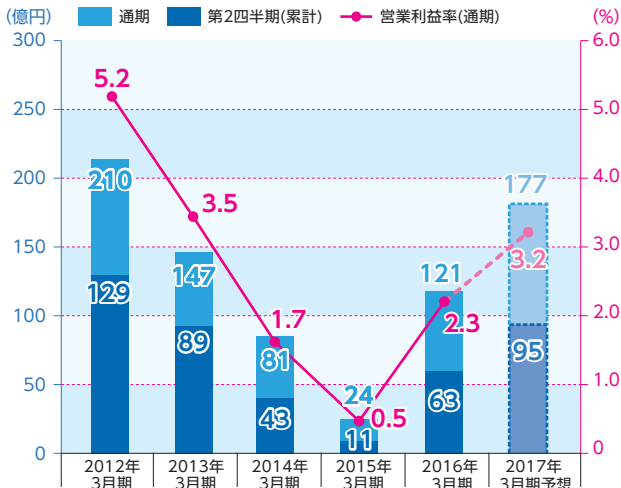
POINT
2

全社的に取り組んだコストコントロールの効果等により増益

営業利益は、新規出店や「すき家」の深夜営業の再開に加え、「すき家」の「New Value」をはじめとするメニュー施策、各業態で取り組んだコストコントロール、スーパーマーケット事業の収益改善などにより、96億円増収の121億円(前期比384.9%増)となりました。

営業利益

(億円未満切捨て)



Closeup

すき家V字回復に向けての取り組み

牛丼チェーンの「すき家」では、2015年4月15日に、価格改定とともに具材を20%増量した「New Value」牛丼の販売を開始いたしました。当初、入客数は一時的に減少したものの、7月頃から徐々に回復に向かい、9月29日から10月22日まで期間限定で行った「秋の肉祭り」(牛丼全品60円引き)や、現在も期間限定で行っている「牛丼とん汁おしんこセット」・「牛丼とん汁たまごセット」490円フェアの効果もあり、2016年3月期の既存店売上高前年比は、101.1%と前年を上回る結果となりました。

また、深夜時間帯の営業休止については、人員確保を進めた結果、約9割の店舗において通常営業(24時間営業)に戻っております(2016年3月末日時点)。

今後お客様に安全でおいしい食を安心して召し上がっていただけるよう、新商品や季節商品の継続的な投入を行うとともに、サービスレベルの向上、快適な店舗づくりに努めてまいります。

連結貸借対照表(要旨)

(億円未満切捨て)

	前期末 2015年3月31日	当期末 2016年3月31日	増減
資産の部			
流動資産	726	646	△79
現金及び預金	294	209	△85
その他	432	437	+5
固定資産	2,166	2,135	△30
有形固定資産	1,267	1,274	+6
無形固定資産	171	161	△9
投資その他の資産	727	699	△27
資産合計	2,894	2,783	△111
負債の部			
有利子負債	1,491	1,398	△93
短期借入金・CP	92	38	△53
長期借入金・社債	1,399	1,359	△40
その他の負債	660	634	△25
負債合計	2,152	2,032	△119
純資産の部			
株主資本	599	634	+34
資本金・資本剰余金	474	477	+2
利益剰余金	124	156	+32
その他の包括利益累計額合計	9	△17	△27
少数株主持分	133	133	+0
純資産合計	742	750	+8
負債純資産合計	2,894	2,783	△111

POINT
3

自己資本比率・純資産比率は良化

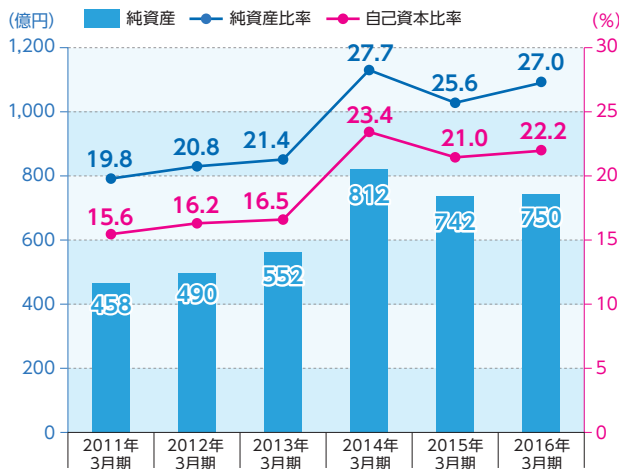
当期末の資産につきましては、主に借入金の返済等による現金および預金の減少等により、前期末から111億円減少いたしました。

負債につきましては、借入金や未払消費税等の減少等により、前期末から119億円減少いたしました。純資産につきましては、利益剰余金の増加等により前期末から8億円増加いたしました。

以上の結果、自己資本比率は22.2%(前期比+1.2%pt)、純資産比率は27.0%(同+1.4%pt)となりました。

自己資本及び純資産

(億円未満切捨て)



連結キャッシュ・フロー (要旨)

(億円未満切捨て)

	2015年3月期	2016年3月期	増減
現金及び現金同等物の期首残高	443	294	△148
営業キャッシュ・フロー	173	254	+80
投資キャッシュ・フロー	△231	△208	+22
財務キャッシュ・フロー	△93	△131	△37
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△4	△6
現金及び現金同等物の期末残高	294	209	△85
フリー・キャッシュ・フロー	△57	46	+103

POINT
4

フリー・キャッシュ・フローは対前期比で増加

当期の営業キャッシュ・フローにつきましては、税金等調整前当期純利益の増加等により前期比 80 億円増加し、+254 億円となりました。投資キャッシュ・フローにつきましては、店舗改装費用等の減少により、前期比 22 億円支出が減少し、△208 億円となりました。

以上の結果、フリー・キャッシュ・フローは前期比 103 億円改善し、+46 億円となりました。

Closeup

「はま寿司」全国47都道府県への出店を達成

4月25日(月)、京都府山科市に「はま寿司山科樹辻店」を出店し、全国47都道府県への出店を達成しました。2002年11月に栃木県足利市に第一号店をオープンして以来14年間で439店舗出店しています(2016年5月末現在)。

はま寿司 営業部
田邊 公己(ゼネラルマネージャー)へ
突撃インタビュー!



Q 全国出店を達成するにあたり、心がけてきたことは何ですか？

A その町や地域のみなさまに、はま寿司ができてよかったね、と思っていただけるように1店1店大切にオープンしてきました。その積み重ねが全国出店という結果につながったのだと思います。

Q 今後はどのようなことに取り組んでいくのですか？

A はま寿司には小さなお子様からお年寄りまで幅広い年齢層のお客様がいらっしゃるので、みなさんに喜んでいただけるようなメニューを提供していきたいと考えています。常にお客様に満足していただけるよう努めていますが、まだまだ至らない点が多くありますので、日々改善を行い、より愛されるはま寿司にしていきたいです。



はま寿司 営業部 田邊 公己
(ゼネラルマネージャー)



「はま寿司山科樹辻店」外観

AERA企業研究ムック「ゼンショーホールディングス」が発刊

4月下旬に朝日新聞出版からAERA企業研究ムック「ゼンショーホールディングス」が発刊されました。

ゼンショーグループの魅力を伝えるためにAERA編集部が総力取材したムックで、これまで社会にあまり知られていなかった部分まで幅広く伝えられています。また、ゼンショーフェアトレードの情報を網羅した小冊子も付録として添付されています。全国の主要な書店で販売されていますので、ぜひお手にとってご覧ください。

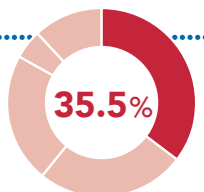


外食事業

1 牛丼カテゴリー

前年同期比 +7.7%

2016年3月期 売上高
1,868億86百万円



牛丼カテゴリーの当連結会計年度末の店舗数は、70店舗出店、34店舗退店した結果、2,617店舗となりました。(株)すき家本部が経営する「すき家」では、「牛びびんバ丼定食」や「牛すき鍋定食」等の新商品および季節商品の導入に加え、「New Value」の牛丼をより多くのお客様にお召し上がりいただきたく、「秋の肉祭り(牛丼価格60円引き)」や「牛丼とん汁おしんこセット」・「牛丼とん汁たまごセット」の並盛490円フェアを実施するなど、業績の向上に努めてまいりました。

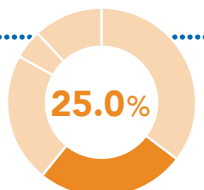
(株)なか卯が経営する「なか卯」では、新商品・季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化と店舗販促の実施により、業績の向上に努めてまいりました。

以上の結果、牛丼カテゴリーの当連結会計年度の売上高は、1,868億86百万円(前年同期比7.7%増)となりました。

2 レストランカテゴリー

前年同期比 -13.7%

2016年3月期 売上高
1,312億40百万円



レストランカテゴリーの当連結会計年度末の店舗数は、7店舗出店、5店舗退店した結果、1,367店舗(FC78店舗を含む)となりました。

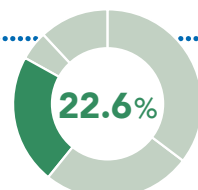
「ココス」、「ビッグボーイ」、「ジョリーパスタ」、「華屋与兵衛」をはじめとする主力業態を中心に、メニューのラインアップの強化ならびに拡充やフェアメニューの投入を行うとともに、店舗のサービス水準の向上に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。なお、米国のレストラン事業につきましては、前連結会計年度末に運営会社の全株式を譲渡いたしました。

以上の結果、レストランカテゴリーの当連結会計年度の売上高は、1,312億40百万円(前年同期比13.7%減)となりました。

3 ファストフードカテゴリー

前年同期比 +12.4%

2016年3月期 売上高
1,187億10百万円



ファストフードカテゴリーの当連結会計年度末の店舗数は、62店舗出店、14店舗退店した結果、730店舗となりました。

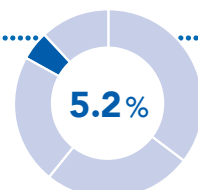
(株)はま寿司が経営する回転寿司の「はま寿司」につきましては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努めてまいりました。

以上の結果、ファストフードカテゴリーの当連結会計年度の売上高は、1,187億10百万円(前年同期比12.4%増)となりました。

4 その他カテゴリー

前年同期比 +1.2%

2016年3月期 売上高
274億21百万円



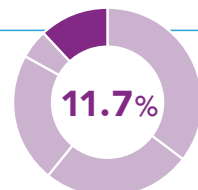
その他カテゴリーの当連結会計年度の売上高は、274億21百万円(前年同期比1.2%増)となりました。

当カテゴリーの主な内訳は、冷凍ピッツア等販売の(株)コロナジャパン、グループの物流機能を担う(株)グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する(株)グローバルテーブルサプライ等です。

小売事業

前年同期比 +14.8%

2016年3月期 売上高
614億51百万円



小売事業の当連結会計年度の売上高は614億51百万円(前年同期比14.8%増)、営業利益は1億34百万円(前年同期は営業損失10億77百万円)となりました。

当連結会計年度における小売事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する(株)マルヤ、(株)マルエイ、(株)尾張屋および果実販売等の(株)ユナイテッドベジーズ等です。

インタビュールーム Q & A

このたびの平成28年(2016年)熊本地震により、被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

Q ゼンショーグループ店舗の被害状況は？

A 4月16日(土)の本震発生後、備品の散乱やガス・水道等のライフラインが遮断されたことにより、一時ゼンショーグループで30店舗が営業停止を余儀なくされました。これを受け、グループ各社では早急な営業再開に向け現地の社員、クルー、その他被災地以外の社員が各店舗に入り、店内の片づけやクリンリネスを実施。調理水と飲料水を使用することで順次営業を再開させ、2週間後の4月28日(木)には全店営業を再開することができました。

震災の影響で営業を停止した店舗数

	営業停止店舗数	熊本県内店舗数	熊本県外店舗数
すき家	21店舗	19店舗	大分1店、福岡1店含む
はま寿司	4 店舗	4 店舗	—
ジョリーパスタ	4 店舗	4 店舗	—
なか卯	1 店舗	1 店舗	—
合 計	30店舗	28店舗	2 店舗

Q ゼンショーグループは熊本地震で具体的にどんな活動をされたのですか？

A 本部では前震と本震の翌日に2度にわたり緊急対策本部を招集し、各業態のお客様と従業員の安否確認、店舗の被害状況の掌握に努めました。一方で本震の翌日には現地熊本にも各業態の対策本部と統括責任者を設置し、ゼンショーグループの各社・各業態・お取引先様が連携して早急な営業再開に向けた取り組みを開始しました。

また、このような緊急事態の際でもいつでも温かいお食事を召し上がっていただきたいという思いから、すき家のキッチンカーによる炊き出しを行いました。すき家に加え、なか卯、ジョリーパスタも避難所へ緊急支援を実施、ゼンショーグループで約9,500食を提供させていただきました。

また、ゼンショーグループ約4,300店舗での募金活動、および従業員からの募金活動を行いました。



阿蘇 熊本空港ホテル エミナース(熊本県指定避難所)での炊き出しの様子

Q ゼンショーグループの今後の取り組みについて教えてください。

A いかなる状況にあっても安全でおいしい、そして温かいお食事を召し上がっていただくことはゼンショーグループの使命です。

ゼンショーグループでは、2011年の東日本大震災などの経験を踏まえ、どんな緊急事態が発生した際にも食のインフラとしてグループ店舗が営業を継続(あるいは早急な再開)できる体制の構築にグループをあげて取り組んでいます。

株主優待制度

当社では皆様の日頃のご厚情に感謝し、100株以上保有の株主の方に、当社グループでお使いいただける「株主様お食事ご優待券」をお届けしています。



100株以上300株未満	1,000円分 (500円券 × 2枚)
300株以上500株未満	3,000円分 (500円券 × 6枚)
500株以上1,000株未満	6,000円分 (500円券 × 12枚)
1,000株以上5,000株未満	12,000円分 (500円券 × 24枚)
5,000株以上	30,000円分 (500円券 × 60枚)

ご優待券をご利用いただけるお店



代替品について

300株以上保有の株主様は、代替品交換制度をご利用いただけます。



(代替品の一例)

定められた期限内に未使用で最新の株主優待券(切り離し無効)をご返送いただくと、3,000円1冊分で、ゼンショーグループのオリジナル商品と交換が可能です。

※詳細は株主優待券同封の「株主様お食事ご優待券のご案内」をご覧ください。

株式の状況 (2016年3月末現在)

発行可能株式総数 432,000,000株	発行済株式の総数 149,640,445株	株主数 161,073名
---------------------------------	---------------------------------	------------------------

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社 日本クリエイト	50,567	33.80
小川 賢太郎	3,162	2.11
小川 一政	3,160	2.11
小川 洋平	3,160	2.11
ゼンショーグループ社員持株会	2,710	1.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,296	1.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,592	1.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	1,040	0.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,040	0.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	1,036	0.69

(注)持株比率は自己株式(23,991株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	： 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
配当金受領株主確定日	： 3月31日および9月30日
定時株主総会	： 毎年6月開催
基準日	： 3月31日
	： その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。
株主名簿管理人	： 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	： 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	： 0120-782-031 (フリーダイヤル)
単元株式数	： 100株
公告方法	： 原則として当社ホームページにて行います。電子公告による ことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載して行います。

お近くのお店は「ゼンショーグループ店舗検索サイト」でご確認ください

パソコン、スマートフォンから

ゼンショーさがす

検索

携帯から右記QRコードを読み取ってください。

